

四旬節第五主日 2020.3.29

## ラザロのよみがえり

ヨハネ福音書 11 章 1-45 節

ある病人がいた。マリアとその姉妹マルタの村、ベタニアの出身で、ラザロといった。このマリアは主に香油を塗り、髪の毛で主の足をめぐった女である。その兄弟ラザロが病気であった。姉妹たちはイエスのもとに人をやって、「主よ、あなたの愛しておられる者が病気なのです」と言わせた。イエスは、それを聞いて言われた。「この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。神の子がそれによって栄光を受けるのである。」イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。ラザロが病気だと聞いてからも、なお二日間同じ所に滞在された。

それから、弟子たちに言われた。「もう一度、ユダヤに行こう。」

(中略)

さて、イエスが行って御覧になると、ラザロは墓に葬られて既に四日もたっていた。ベタニアはエルサレムに近く、十五スタディオンほどのところにあった。マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人が、兄弟ラザロのことで慰めに来ていた。

マルタは、イエスが来られたと聞いて、迎えに行ったが、マリアは家の中に座っていた。マルタはイエスに言った。「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。しかし、あなたが神にお願いになることは何でも神はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。」イエスが、「あなたの兄弟は復活する」と言われると、マルタは、「終わりの日の復活の時に復活することは存じております」と言った。

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世

に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」マルタは、こう言ってから、家に帰って姉妹のマリアを呼び、「先生がいらして、あなたをお呼びです」と耳打ちした。マリアはこれを聞くと、すぐに立ち上がり、イエスのもとに行った。イエスはまだ村には入らず、マルタが出迎えた場所におられた。家の中でマリアと一緒にいて、慰めていたユダヤ人たちは、彼女が急に立ち上がって出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだろうと思い、後を追った。マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに」と言った。イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言った。イエスは涙を流された。ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようににはできなかつたのか」と言う者もいた。イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に来られた。墓は洞穴で、石でふさがれていた。イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」と言った。イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」

こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやって、行かせなさい」と言われた。マリ

アのところに来て、イエスのなされたことを目撃したユダヤ人の多くは、イエスを信じた。

## 説教

ラザロ危篤の連絡を受けたイエスはすぐに見舞いにかげつけることなく、なお二日間とどまり、三日目にラザロのもと、マルタ、マリア姉妹のもとに赴きます。すでに葬られたラザロを前にしてみんな泣いています。イエスも泣きます。しかしイエスの呼びかけに答えて死人のラザロは墓の中からでてきます。この出来事を目撃した人たちの多くはイエスを信じました。

三週続けてヨハネ福音書（4章、9章、11章）から朗読しました。それぞれにイエスを信じる3つのパターンがありました。

### 1) サマリアの女（4章） 多くの人、更に多くの人イエスを信じたパターン

サマリアの町の人々は彼女の証言を通して多くの人イエスを信じました。またイエスを招いて二日間ほど直接教えを聞き更に多くの人信じました。

この二日間はイエスの黄泉下り（死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました、使徒信条から）に相当するという解釈があります。きょうの朗読箇所でも二日間（ラザロが病気だと聞いてからも、なお二日間同じ所に滞在された）ができます。奇妙な一致点です。

### 2) シロアムの盲人（9章） 一人だけがイエスを信じたパターン

イエスは盲人の目を開くという癒しの奇跡をおこないます。しかしユダヤ人たちはその事実を信じません。イエスに治してもらったと証言する盲人を追放してしまいます。

信じないという背景にはイエスをメシアだという者は会堂から追放するとい

う条令があったからだと福音書（ヨハネ 9:22）で理由を説明しています。

3) ラザロのよみがえり（11章） 多くの人イエスを信じたパターン  
イエスはメシアだと信じているが、まさか死人を生き返らすことはできない  
だろうと悲嘆にくれています。しかし、イエスは奇跡をおこします。それを  
目撃した多くの人（ユダヤ人）がイエスを信じました。逆にいえば少なから  
ずの人は信じませんでした。

ことばで信じているだけでは本当にメシア（イエス）が来た時にとまどって  
しまう様子（もっとハッキリいえば、いざとなったら信じない）が3つのパ  
ターンからわかります。信仰はことば（理性）で知ることから始まりますが、  
それだけでは足りない。ことばだけでなく身体（からだ）をとおしてイエス  
を知ること、イエスを体験することがイエスを信じることだと福音書は伝え  
ています。

名前って何？バラと呼んでいる花を別の名前にしても美しい香りはそ  
のまま（ロミオとジュリエットから）